

## 平成29年度 地区座談会 開催



2月1日 仁賀保地区「スマイル」



2月2日 由利・矢島・鳥海地区「善隣館」



2月7日 大内・岩城地区「メープル」



2月8日 本荘・東由利地区「湯楽里」

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141(代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール [honmori@trad.ocn.ne.jp](mailto:honmori@trad.ocn.ne.jp)

# 平成29年度 地区座談会

2月1日(木)から8日(木)にかけて、管内4地区で座談会を開催しました。小松組合長の挨拶に続き、参事・各課長が今年度の組合経営状況と、各部門の事業進捗状況等を報告しました。組合員からは幅広い意見や質問がありました。今回は全ての質問を掲載いたします。

## 仁賀保地区「2月1日・スマイル」

Q、太郎ヶ台林道に面した集落の間伐をしてもらっている。その作業道を作ることによって林道が壊れることはないか。  
A、間伐をする事で保水力など山が強くなる。そのような事例は聞かない。

Q、細物、曲がり材の用途が知りたい。  
A、細物2m材 ↓ 合板  
曲がり材 ↓ ラミナ(集成材)  
伐根 ↓ チップ

Q、森林環境税はどのような用途に使用されるのか。山主への還元はあるのか。  
A、運用は平成31年からで、市町村が施業をする意志のない所有者から委託を受け、間伐を実施する場合などに環境税の対象となる予定。直接山主に還元されるべき性質のものではない。

Q、河川を渡らなければ施業できない



山林もある事を知ってほしい。(回答求めず)

Q、松くい虫で昔植えた松が全滅した。植えたいと思いい森林組合に問い合わせたところ、苗木が無いと言われた。A、抵抗性の松苗は在庫がなく、冬期であったため植林をすすめなかった。注文を断ったわけではない。

Q、補助事業を知らなかった。集落の山も補助金が見えるか見て欲しい。  
A、後日、仁賀保支所で詳細を聞く。

Q、チップにコーティングを行い付加価値を付けてはどうか。(回答求めず)

Q、各地区座談会の質疑も文章配布してほしい。

A、3月末の組合だよりで対応します。

Q、仁賀保支所は職員対応が大変良い。どのような指導を行っているのか。

A、組合長始め、役員、担当理事指導の賜物。

Q、間伐をお願いしているが、利益優先で事業を行っているのではないか。また作業道を作ること土砂災害に繋がった例はあるか。



A、営利のみ考えてやっているわけではない。適切な経営計画に基づき作業を行っている。土砂災害の例は聞かない。

Q、座談会で監査講評は発表しないのか。

A、監査講評は規約に則り適切に行っている。内容は決算資料に掲載してある。

Q、切捨てのみの間伐は申請できるか。

A、経営計画を組めば出来る。詳しくは後日支所で聞く。

Q、青森ヒバを植栽したが、ニホンジカに食べられ困っている。対策を聞きたい。  
A、現在組合では扱っていないが、「忌避剤」という防除薬剤がある。



## 由利・矢島・鳥海地区「2月2日・善隣館」

Q、集落で植林した50年生の杉林を、管理できなくなってきた。山の手入れをお願いしたい。

A、採択要件は資料にあるとおりだが、支所に相談し、山の状態を確認する必要がある。

Q、円柱加工の稼働期間は12月までか。

A、1年を通して稼働している。

Q、共同山の皆伐をお願いできるか。

A、今年、山林現況を調査し、立木の売買契約金額を見積もる予定。

Q、大手林業事業者が、由利管内の山林売買のため営業活動をしているが状況はどうか。

A、由利管内組合員の山林は森林経営計画等で綿密な施業管理を行えば、外の業者が入っても影響はない。昨年、県外大手業者から皆伐事業の話があったが、



断っている。

Q、森林環境税について聞きたい。

A、税収用途は、市町村が行う間伐や人材育成・担い手の確保・木材利用の促進や普及啓発、県の市町村に対する支援などが対象となる予定。

Q、製材工場の歩留まりが42%だが、残りの58%はどうなっているのか。

A、製品以外は「おがこ」を畜産業に、「チップ」を紙の原材料として販売している。

Q、バイオマスのチップ単価はいくらか。

A、チップ単価は1t当たり1万円。

Q、バイオマス事業の計画に対する進捗状況はどうか。

A、進捗率は7月から稼働したため、計画の6〜7割の実績。

Q、森林環境税に関して、徴収方法と用途が知りたい。

A、徴収は個人住民税均等割り1000円で対象者は全国で6000万人。また、各市町村の人工林面積、林業就業者、人口の3基準の割合に基づいて計算され、配分される予定。



## 大内・岩城地区「2月7日・メープル」

Q、所有林をこれからどうしたらいいか、アンケートなどを取り、それに対する森林組合の回答を聞きたい。

A、アンケートは組合まつりで実施し、その後、広報に掲載している。山林に対する疑問があった場合、組合に相談して欲しい。

Q、山林に関する予算は今後増えると思う。職員や作業班を増やし、余裕を持てるようにしてはどうか。

A、現在の2倍以上生産能力を高めていきたい。役員一体となり雇用も考えたい。

Q、加工部門の収益が1億9千3百万、製材部門の収益が1億5千8百万とあるがその差は何か。

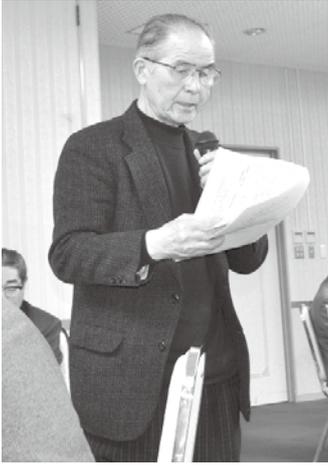
A、バイオマス事業の差。

Q、チップの単価が知りたい。

A、単価は1t当たり1万円。

Q、山林の手入れを頼んだが、隣接者の協力が得られない。今一度集約化を進めて欲しい。

A、地形的な問題もあるが、周囲の所有者に声を掛けながら進める。



Q、バイオマス事業について詳しく説明願う。  
A、1日3、4回運搬し、12月までに3386t納入している。現在の利益は十一〇。今後は費用がかからなくなり挽回する予定。

Q、補助金は来年もあるのか。  
A、来年もある。支所に相談願う。

Q、昔、県で土地の買い取りをしていたが、土地売買の単価表はあるのか。  
A、単価表は森林組合では保有していない。県では現在買上げをしていない。今

後も予定はない。

Q、個人売買の単価を知りたい。

A、取引はケースバイケースで大きな差がある。双方話し合いで決めることになる。

Q、(昨年の質問と応答)

亡くなった方の所有林がどこにあるのか分からなくなる。市で評価一覧のように詳細まで知らせてもらうことはできないか。

A、税務課では課税にならない場所は通知していない。県内でもそのような取り組みは行っていない。



## 本荘・東由利地区「2月8日・湯楽里」

Q、新築住宅が増えない状況で木材価格に不安がある。今後の推移はどうなるのか。

A、現在は昨年同期に比べると高水準であるが、一概には言えない。消費増税や、オリンピックなどの影響もあるのではないかと。いずれにしても見通しは難しい。

Q、チップ事業を行うことで山林所有者に少しでも還元されるのか。

A、石当たり100〜500円ほど還元できる。条件によって変動はあるが、事業費を抑え、より還元できるように努力したい。

Q、小面積山林の手入れがされていないように思える。集約化を進めて欲しい。  
A、搬出間伐を行う場合5町歩必要になるが、機械の大型化が進み、作業道を通すだけで小さな山がつぶれかねない。組合でも計画を組み、近隣住民に声をかけ集約化を進めていく。

Q、新年の挨拶で人材育成を掲げたい。具体的に聞かせて欲しい。

A、現在作業班が足りていない。人材育成に力を入れていく。

Q、森林環境税が話題になっているが、小規模の山林所有者はどのような影響があるのか。

A、市町村が行う間伐、人材育成や担い手確保などに使用できるシステムが考えられている。具体的に市町村の用途についてはまだ決まっていない。



Q、近年、森林組合職員の自己都合退職が多い。人材確保のために組合長の手腕を活かしてほしい。

A、自己退職は組合経営のうえでも痛手となる。新年度までに賃金の見直しを行いたい。

Q、いつも追い風の話をするが、組合や業者に対しての追い風ではなく林家に対して努力をしてほしい。最盛期に比べ木材価格が落ち込んだ現在、組合ではどのように林家の不安を和らげるつもりか。

A、木材価格は以前より厳しくなり、多少の曲がりでも受け入れられなくなってきた。山によって差はあるが組合を利用し木の手入れをすることでより良い木を育てて欲しい。

Q、膨大な蓄材積をどのように利用するのか。

A、県では、5ヶ年計画を立て「ウッドファーストあきた」を推奨している。現在、由利地域では林業専用道の整備や集約化を図り搬出材積の増加を狙っている。

Q、いつも高性能林業機械、追い風の話をするが、組合長の本音が聞きたい。

A、27年度に、全県組合長会議で実施したヨーロッパ林業視察などを通じて、生産性の向上と低コスト化の必要性を強く感じた。これらに向け高性能林業機械など計画的な基盤整備を進めてまいりたい。

Q、バイオマス事業の契約数量は予定通り納められるのか。

A、バイオマス事業は7月からの稼働となっており、計画に対し6〜7割の実績になると思われる。

Q、市ではどのような林業振興を行っていきのかお聞きしたい。事業に対する高上げが前々からあったが、どのような事業に対してなのか。また、にかほ市と比べてどうなのか。

A、補助金は、全ての事業が対象となるわけではない。29年度は両市で2800万円の予算がついた。にかほ市の方が補助率は高いが、由利本荘市は面積が多い中、頑張つて予算をつけていた。

Q、12月に東由利の採石場が終了した。組合でも利用していたと思うが、対策は考えているのか。

A、これからは鳥海砕石から持つてくることになるが、管内近くの業者を探すことも考えている。

Q、今後の木材利用でCLTを良く聞く。秋田県のCLT利用状況が知りたい。  
A、日本では岡山県の会社が一番大きい。秋田県では会社が少なく、普及は進んでいないが、いずれにしても建築関係などで設計に組み入れられることが利用促進の要因となる。

Q、ペレット材の現状を知りたい。

A、ペレット材は生産効率が悪く新規で行うには大変な事業だ。管内では矢島木材乾燥(株)が廃材を使用して製造している。

Q、林業は他の産業に比べ事故率が非常に高い。林業のロボット化の現状を知りたい。

A、高性能林業機械の中には無線で操作するものもある。木は人が切るが、操作時は木に近づかなくても仕事ができるものがある。



## 第23回造林コンクール表彰授与式

平成30年2月16日(金)本荘グランドホテルで第23回本荘由利森林組合造林コンクール表彰授与式及び林業講演会を開催しました。今回のコンクールでは収穫間伐の部、保育間伐の部、幼齢の部、枝打の部の4部門で8名の方が受賞されました。

### 受賞おめでとうございます

◆最優秀賞 由利地域振興局長賞

【収穫間伐の部】

太田 忠人 (鳥海地区)

◆優秀賞 由利森林管理署長賞

【収穫間伐の部】

今野 隆幸 (岩城地区)

齋藤 喜也 (仁賀保地区)

◆優良賞 秋田県森林組合連合会長賞

【収穫間伐の部】

中畑集落総代

小松 哲夫 (由利地区)

【保育間伐の部】

阿部 重助 (東由利地区)

◆入賞 本荘由利森林組合長賞

【幼齢林の部】

熊谷 正博 (由利地区)

【枝打ちの部】

今野 甚治郎 (仁賀保地区)

【収穫間伐の部】

共有 佐々木 恒 (大内地区)



今野 隆幸氏

阿部 重助氏

### ◆審査講評◆

(最優秀賞林分のみ紹介)

非常に樹高成長が良く、理想的な林分密度が保たれ、枯れ枝も殆ど無く、林床も整備され、美しい林分となっております。

また、林道と森林作業道の路網を活用した高性能林業機械による収穫間伐を行い、コスト低減が図られ、搬出された間伐材は、製材用と合板用に加え、本来林内に放置される梢端部等までチップ用材として有効利用されている事を高く評価しました。



## 国産スギ丸太価格の現状

近年、国産材をめぐる動きは年々活発になっており、全国の年間の木材総需要量のうち、国産材の占める割合（自給率）は、平成28年度は、34.7%まで上昇しました。

これは、全国各地で大型工場が稼働し、広域で丸太の需要が増大していることや、中国の木材輸入量が大幅に増加したことなどにより、流通構造が変化したため、外材が日本に入りにくい状況になっていることなども要因の一つといわれています。

これから、何回かにわたって、近年の国産材の動向などについてご紹介したいと思います。今回は、今年度の連絡員会議でもご質問のあった、国産スギ丸太価格の現状についてご紹介いたします。

### 1. 木材価格統計調査について

・木材製品や丸太価格の動向については、農林水産省が外部委託により調査した結果を毎月ごとに公表し、林野庁のホームページに掲載されています。

### 2. 平成28年の全国のスギ丸太平均価格について

・1の結果をもとに、平成28年（1月～12月）の主な地域のスギ丸太価格の年間平均値を表-1に示しました。

表-1 単価：円/m<sup>3</sup>（（ ）内は石当たり）

区分 地域	スギ中丸太		スギ大丸太
	14～22cm	24～28cm	30～36cm
全 国	12,300 (3,417)	12,800 (3,556)	13,300 (3,694)
秋 田	10,000 (2,778)	13,000 (3,611)	11,300 (3,139)
東 北	11,500 (3,194)	11,600 (3,222)	13,000 (3,611)
九 州	12,900 (3,583)	13,300 (3,694)	13,100 (3,639)

※価格は、製材所の工場着価格、長級は3.65～4.00m込みの加重平均値  
 ※丸太規格は、日本農林規格（JAS） ※東北平均値は、秋田を除く

・表-1から、一般的に東北は、全国平均に比べ低位にありますが、秋田の中丸太（24～28cm級）は、全国並みとなっています。

・特に、九州地域は、いずれの径級も高水準にありますが、これは、近年、九州地域では、総合的な大型製材工場がいくつも操業し、丸太の引き合いが強まり、相場が底上げされていることなどが要因と考えられます。

※【参考】

・本荘由利森林組合木材流通センターの平成28年の平均落札価格は、16～22cm（柱目材）は8,500円/m<sup>3</sup>（2,361円/石）、24～34cm（中目材）は、11,300円/m<sup>3</sup>（3,139円/石）ですが、これを表-1の統計値と同じ基準（工場着価格）で比較するには、輸送費や積み降ろし料を加算することになります。

これらの経費は、m<sup>3</sup>当たり1,300円～1,800円（石当たり360円～500円）ですので、これを加えると、ほぼ秋田の平均値と同じことがわかります。

# 木材市況情報 (平成29年度)

単位：円、上段（石当り価格）  
下段 m 当り価格

樹種	材長 m	径級 cm	1月12日			2月2日			3月2日		
			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格
スギ	3.65	14	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		16~22	(3,139) 11,300	(3,050) 10,981	(3,073) 11,063	(3,194) 11,499	(3,091) 10,868	(3,061) 11,018	(3,114) 11,210	(2,787) 10,034	(3,026) 10,894
		24~28	(3,538) 12,736	(3,337) 12,012	(3,468) 12,483	(3,515) 12,653	(3,358) 12,090	(3,467) 12,481	(3,499) 12,598	(3,316) 11,937	(3,408) 12,268
出材量・販売量・販売率			1,021m <sup>3</sup> (3,676石) 1,009m <sup>3</sup> (3,632石) 99%			830m <sup>3</sup> (3,024石) 830m <sup>3</sup> (3,024石) 100%			607m <sup>3</sup> (2,185石) 601m <sup>3</sup> (2,164石) 99%		
<p>1月：36cm上が残った以外完売で99%の落札率。原木不足の状況の中、量産工場や山形県勢が量をまとめた。単価は横ばい。</p> <p>2月：常連に加えて山形県勢も参加し、完売。単価はほぼ横ばいながら、相変わらず引き合いは強い。16~22cmで11,000~11,500円/m<sup>3</sup>、24~28cmで12,600円/m<sup>3</sup>前後。</p> <p>3月：1本売りの大径材以外は完売。久々の参加の山形の量産工場もあり、原木不足が顕著となっている。単価は材質次第ながら横ばいといったところ。</p>											

## ※賦課金納入のお願い※

賦課金納入時期が過ぎておりますので、未納の方はお早めに納入をお願いします。納付は組合本所・支所及び下記の金融機関へ納入下さいますようお願いいたします。

### 【取扱金融機関】

秋田銀行管内各支店・北都銀行管内各支店・羽後信用金庫各支店  
山形銀行本荘支店・きらやか銀行本荘支店・秋田しんせい農業協同組合各支店



## ～各種届け出のお願い～

各種手続きは所定の用紙でご記入・提出をお願いします。用紙は本所・各支所に準備してあり、ご希望の方には郵送します。（記入後は各自で返送、提出をお願いします。）

### ●相続届

相続開始後90日以内に提出ください。郵便物が、亡くなった方の名前で届いてしまうほか、補助申請や、選挙などに障害をきたす場合がございます。速やかに手続きをお願いいたします。

### ●法人、団体、代表者名の変更

法人、団体、地域等、団体名で加入されている組合員様で、「団体名の変更」又は「代表者名の変更」がございましたら届出をしていただく必要がありますので、お問い合わせください。

### ●脱退届

組合員の脱退をお考えの方は一度お近くの支所にご相談ください。また、山林が無くなった場合は脱退手続きが必要となります。今年度（平成30年3月31日）脱退は平成30年1月31日まで届出をされた方になります。2月以降提出された方は来年度（平成31年3月31日）となりますのでご注意ください。